

四万十町の学校訪問(12) 東又小学校の風景



東又小学校は四万十町東南部に南北12km・東西9kmの広い校区を有しています。志和の海では漁業が、台地部では米作りや畑作・畜産等が営まれ、第一次産業の集積が盛んな地区です。

興津・影野・仁井田・窪川・中土佐など多くの地区に道が通じています。校区の周辺部にも若い世代が多く、現在16地区から69人の



児童が通学しています。

遠くからもよく見える時計台の三角屋根をめざし、校地に入ると2本の大銀杏が迎えてくれます。初冬のころには一面が黄色の海となります。

学校の西隣には地域の方々のご尽力でできたピオトープがあり、園児や児童の憩いと冒険の場所となっています。2年前にはトピア21の方々と一緒に重機まで入った大規模な清掃を行って、見つかった大ウナギを「食べる」「逃がす」と論争したことが懐かしく思います。今年も早々に5、6年生が清掃して気持ちよく使っています。

よく働き、優しい東又小の子どもたちが育つ大事な場のひとつ「縦割り

班活動」がスタートする4月。教え、姿で示す先輩を後輩が学び、見習っていきます。5年生が1年生の手を引いて6年生の班長のもとに連れていきます。それぞれの気合いが伝わってきます。

地域の方々の温かい目に見守られながら今年もスタートしました。



〔お問い合わせ先〕東又小学校 24-0006

マリサ通信

おかげさまで土佐弁ミュージカルが無事に終わり、私たちGENKI青年会は海外留学を希望する学生を支援できるようになりました。留学と言えば、もうそろそろ「一泊ホームステイin四万十」の時期ですね。

過去9年にわたって、数多くの留学生が訪れ、バーベキューや川くだりなどをして、四万十町の家族といい思い出を作りました。今年はどうな出会いが待っているのか、楽しみです。

毎年「外国の料理が作れないから」「英語が出来ないから」という話を聞きますが、ご安心ください。いつも食べている料理が食べたくて、同じ人



と同じように話がしたくてホームステイに応募する人はいないと思います！去年、日本の文化や四万十町の暮らしに興味を持っている9人の留学生を迎えました。留学生の日本語能力はまちまちでしたが、いつも通り、ホストファミリーの希望と趣味に配慮して合わせました。

実は私が3年前に入った留学プログラムは地震と原発事故のため中止になってしまいました。ですから、留学生を四万十町に迎えられることを嬉しく思います。

海外のニュースを見て、日本には誇れるものがたくさんあると感じました。外国からの支援と祈りはその証拠だと思います。留学生の「日本の家族」になって、四万十町のいいところを見せてみませんか？

〔お問い合わせ先〕生涯学習課 マリサ 22-3576